

1. ろうきん森の学校とは ー理念と背景ー

労働金庫連合会（労金連）は創立 50 周年を期した記念活動として、豊かな森の再生・環境問題に取り組む人材育成を柱とした「ろうきん森の学校」を、2005 年 10 月に開校しました。

「ろうきん森の学校」は、日本の里山再生をテーマに、労金連が活動資金を支援し、NPO 法人ホールアース研究所を主管団体として実施する、森林環境教育事業です。活動の柱として

- **森を育む**
(植樹、間伐・下刈り等の森林整備活動)
- **人を育む**
(森づくりや環境教育リーダーの育成)
- **森で遊ぶ**
(里山を活用した自然体験・環境教育プログラムの開発と実施)

の 3 つがあり、2005 年度より 10 年間にわたって富士山、福島、広島の全国 3 地区で現地の NPO を軸に、地域の皆さんと共に展開しています。

荒廃した森林の再生、地域で活動する NPO との協働、人々の健康維持と安らぎに欠かすことのできない森林とのふれあい体験、これらを同時に取り組む新しい社会貢献活動が、「ろうきん森の学校」です。

ろうきん森の学校は、「緑」「健康の維持」「地球環境保全」の 3 つのキーワードと、6 項目の基本方針に基づいて取組みを行っています。

【3つのキーワード】

- 厳しい環境の中で働く勤労者等に精神的な安らぎを与える「**緑**」
- 身体を動かす喜びと「**健康の維持**」
- 「**地球環境保全**」への共感と参画

【6項目の基本方針】

- **地球温暖化防止**に対して足元から取り組みます
- 地域の**多様な自然**を取り戻します
- 里山を活かした**暮らしの提案・発信**をします
- 森づくりから始める**人づくり**を行います
- **地域全体**で活動に取り組みます
- **自律した運営**を目指します

こうしたキーワードと基本方針が出された背景として、2000 年代以降企業や団体の CSR（企業の社会的責任）を果たす取組みが活発化し、特に環境分野での取組みが経営面からも重視されるようになってきたということや、2005 年に開かれた「愛・地球博」以降、急速に「自然学校」と呼ばれる自然体験活動を進める動きも活発になってきたことが挙げられます。

また、ろうきん森の学校がフィールドとしている地域は都市近郊の農山村ですが、こうした地域では近年急速に少子高齢化が進み、耕作放棄地が増え、環境だけでなく地域の文化や暮らしの知恵の継承が困難な状況になりつつあります。基本方針で挙げている「里山を活かした暮らしの提案・発信」とは、自然体験活動を中心としたプログラムを通して地域文化の掘り起こしと継承を図ろうとするものです。

このように、ろうきん森の学校は労金連の CSR を果たす取組みとしてスタートしましたが、目指すべき姿は中山間地をフィールドとして、都市と中山間地が抱える様々な問題の解決の一步を、地域の NPO と共に踏み出そうというユニークな試みともいえます。

2. ろうきん森の学校の特徴

1) ろうきん森の学校の特徴

①「森づくり」から、「人づくり・地域づくり」につなげる自然学校運動

植林や除間伐など、基本的な森づくり活動はもちろん、体験的な手法を通じて森の魅力を実感できる様々なプログラムを実施することを活動の中心に据えています。こうした楽しい活動を通じて、指導者の育成と、都市部からの交流人口を増やし、当該地域の活性化に寄与していきます。



②現地 NPO が主導する「地域主体型」活動の定着

ろうきん森の学校の基本方針は全国共通ですが、活動は現地 NPO が中心となって地域の実情に合わせて柔軟に展開していきます。1～2 年という短期間に成果を焦らず、10 年間という長期に亘った活動の定着を重視します。一方、年に 2 回程度事務局会議を開催し、各地区での取組み状況や成果・課題の共有も行っています。



③支援団体関係者への体験プログラムを通じた「環境マインドの醸成」

支援団体関係者（ろうきん関係者）への研修プログラムを積極的に実施しています。自然体験活動でリフレッシュし、身近な環境問題を実感し、チームワークを醸成するなど、参加者がそれぞれ「ろうきん森の学校」の意義と効果を実感しています。



2) ろうきん森の学校 3地区の事務局 NPO 法人の紹介

■ 富士山地区（静岡県富士宮市他） 現地事務局：NPO 法人ホールアース研究所



1982 年、任意団体「環境教育事業所 動物農場」として歩み始めた当団体は、1987 年、「ホールアース自然学校」と改称して今日まで 28 年に亘り、日本の自然学校の草分けとして活動してきました。

2002 年「NPO 法人ホールアース研究所」を設立しました。

これまで持続可能な社会づくりに寄与することを目的に、適切な自然体験活動・環境教育・エコツーリズムなどの普及、調査研究、人材育成に関わる事業などを、地域の文化や自然環境の保全につとめながら実施しています。

■ 福島地区（福島県いわき市） 現地事務局：NPO 法人いわきの森に親しむ会



2001 年 7～9 月に森との共生をテーマに開催された「うつくしま未来博」での『森のネイチャーツアー&森の学校』のいわき版をつくり、市民の手による里山再生と、市民が安全・気軽に楽しめる仕組みづくりを目的として 2001 年 10 月に発足。

2004 年に NPO 法人認証を受け、現在いわき市内の 5 箇所の森林を活動点とし、森に親しむための観察道整備、自然観察会の実施、木炭/竹炭・木工クラフトづくり、指導者養成などを行っています。

■ 広島地区（広島県山県郡北広島町） 現地事務局：NPO 法人ひろしま自然学校



前身である「人間科学研究所」は 20 年余りに事業を開始し、これまで様々な人材育成事業を行ってきました。地元、広島県教育委員会からの受託事業で、県内全ての青少年教育施設の主催事業を請け負うネットワークを構築し、その事務局を担っています。

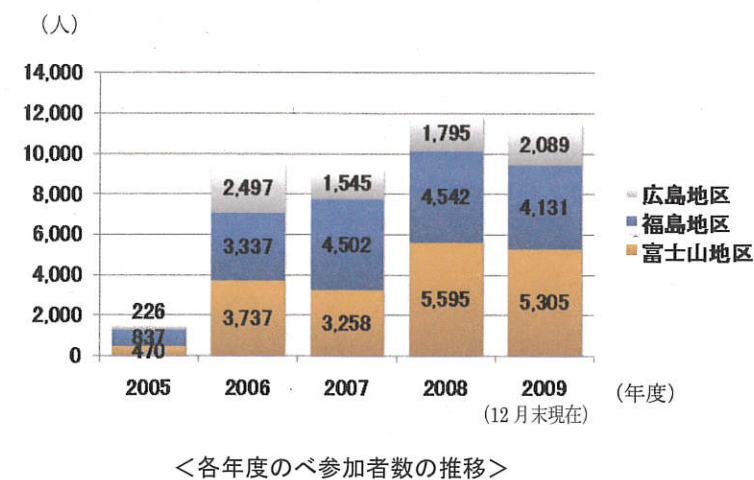
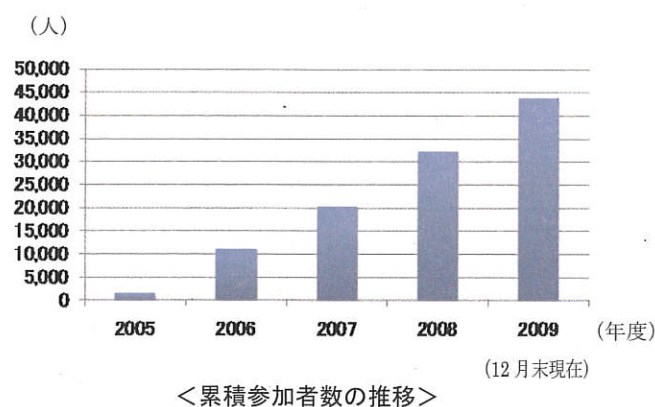
これまで有限会社での事業運営を行っていましたが、2005 年度に「NPO 法人ひろしま自然学校」の設立を行い、地域の関係者と協働しながら広島地区を担当しています。

3. ろうきん森の学校のこれまでの活動実績と今後の展開

2005 年 10 月に開校した「ろうきん森の学校」は 2009 年度で 5 年目を迎えました。中間点を迎えるにあたり、これまでの 5 年間の活動実績を振り返ります。

1) 2009 年度までに 4 万人を超える方が参加

初年度は 10 月からの開校ということ、また基盤整備に重点を置いたことなどにより、のべ参加者数は 1,500 人あまりでした。しかしながら 2 年目以降は各地区での活動が本格化し、3 地区合わせて 1 万人前後が、森づくり活動や自然体験プログラムに参加しました。2009 年 12 月末現在、ろうきん森の学校の累計参加者数は 4 万 4000 人を超えました。



2) 地域と連携した活動を展開

ろうきん森の学校が始まって以降、各地区では事務局の現地 NPO がそれぞれの特色を活かしながら、また地域との連携を図りながら活動を展開しています。10 年後には各地区で自立した運営ができるよう、地域と連携した活動の模索も行っています。

【地域との連携活動の例】

■ 富士山地区（田貫湖秋まつり）

富士山地区の中でも、随一の富士山眺望ポイントである田貫湖畔で、周辺施設の協力の下、「田貫湖秋まつり」を開催しています。2009 年度は湖畔に面した広場を拠点に、クラフトや料理づくりなど、地元静岡労金富士宮支店会員向けのプログラムを実施し、のべ 660 人が参加しました。



■ 福島地区（小学校の環境教育支援）

地元いわき市の小中学校に対する、環境教育支援活動として、自然観察会や間伐体験を行いました。2009年度は市内9校・のべ567人に対して環境教育プログラムを実施しました。これは地元行政からの依頼によるもので、森の学校フィールドで行うだけでなく、学校に出かけて行って行うものもあります。

多くの要請に応えきれない状況ですが可能な範囲で要請に応じて、森の学校の意義を地域の方々に伝えていきます。



■ 広島地区（森の学校フェスティバル）

広島地区の基盤整備がほぼ整った2008年5月の連休に、地元住民や中国労働金庫の顧客や職員、広島地区森の学校サポーターなど多くの人が集い楽しむ場として「森の学校フェスティバル」を初めて開催しました。

以来、5月連休の定番イベントになっており、2009年5月のはのべ340人が参加しました。このフェスティバルで実施したコンサートに、地元住民の音楽家を招き、また地元の清掃活動に参加するなど、地域とのつながりが少しずつ増えてきました。今後は、地元の小学校と連携した校外学習や体験学習を展開する予定です。

